



二子玉川

未来につながるための価値ある探究活動

副校長 家本 咲子

6年生と玉川高島屋における共同開発ならびに販売活動は地域・保護者の皆様のご理解とご協力により、大成功のうちに終了しました。自分たちが関わった商品が一つ残らずお客様の手元に届けられるという経験は、子供たちが自分の未来をデザインし始めるのに十分なきっかけとなりました。

実は、この学習を「総合的な学習の時間」の中でスタートさせたのは、販売開始から5ヶ月前のことです。6年生が今年度「総合的な学習の時間」で取り組もうと決めた学習は「キャリア教育」でした。キャリア教育といっても、職業の種類を知る、とか、将来何になりたいか考える、とかそういうことではありません。「実社会とのかかわり」や「自己表現」を通して、「自らの可能性を主体的に考える力を育む」ために、「自己理解」を揺るぎない柱として、児童自ら「なりたい自分」実現に向けて行動できるようこの学習活動を行うこととしたのです。



活動中、教員は「どうしたい?」「どうなつたらいいと思う?」という最小限の声かけを徹底し、子供たちの「思い」が形になっていくことを見守りました。子供たちは、商品の企画、デザイン、広報、販売戦略、販売活動までを体験的に学び、この活動において関わる職業への関心の有無にかかわらず、児童が自身の興味・関心、強みに気付き自らの可能性を発見していました。考案した商品を企業にプレゼンする姿、選ばれた時に喜びを爆発させた姿、販売効果が高まるポスターやチラシを作成する姿、いよいよ店舗で販売開始となった日の少し緊張した姿。子供たちの姿は、まさに「職業人」そのものでした。

人に話しかけることが少し得意になったと思う

販売することだけに限らないけれど相手の気持ちを感じることが大事だと分かった

この経験を活かして自分には何ができるか考えたり、臨機応変に対応したりができるよう頑張りたい

子供たちが書いた感想には、難しかったけど改善したこと、気がついたこと、今後頑張りたいこと、子供たちの感想にはそれぞれの未来につながる思いがあふれていました。

私たちは未来につながるための価値ある探究活動について、「はじめに子どもありき」であることを大切にし、子供が本来能動的な学習者であり、自ら探究し、内から育つ力があることを信じて取り組みたいと考えています。本校のこうした取り組みはまだ始まったばかりですが、続けることが何より大切で、子供たちの「良くなろうとしている」姿を粘り強く応援していきたいと思っています。

2学期は運動会をはじめ、数多くの教育活動を行ってまいりました。大きな事故なく、12月を迎えたのは、保護者の皆様の支えがあったからに他なりません。いつも見守ってくださりありがとうございます。残りの日々を子供たちと共に大切に過ごし、長かった2学期を笑顔で締めくくりたいと思います。